

日本気象学会 GAIM 研究連絡会の発足のお知らせ

気象学界の最近の状況は、大気圏のほか水圏、地圏、生物圏の全てが密に係わって気象研究者だけでは手に余る課題に直面している処に、その難しさ、新しさ、あるいは面白さがある。そのような例の一つであるが、数年前から ICSU (国際学術連合) は地球圏—生物圏システムを研究する国際共同研究 IGBP (International Geosphere-Biosphere Programme) を立案し、その一部をすでに実行にうつしている。国内的には、日本学術会議が日本版の地球圏—生物圏国際共同研究計画を策定して、1990年4月に総理大臣に建議している。この計画案には7つの研究領域があり、その中の研究領域4として、少々長い題目であるが、「大気圏・水圏・陸圏と生物圏の相互作用を考慮した気候解析とモデリング」という分野が設けられている。

研究領域4は、IGBP全体に共通して係わるモデリングをテーマとするが、それはIGBPのコアプロジェクトとして昨夏に動き始めたGAIM (Global Analysis, Interpretation and Modelling) にほぼ対応し、またWCRPのテーマにあるGCM (Global Climate Modelling) とも内容的に近い。GAIMとGCMとの違いは、IGBPとWCRPとの趣旨の差を反映しており、前者がより生物過程を注目するのに比べ、後者がより物理過程を注目することにある。これらのことから、研究領域4を日本版GAIMとし、その研究のための研究グループを組織する運びとなった(本年2月)。なお、GAIMは日本においてはガイムと通称することになっている。

日本のIGBP/GAIM研究グループが興味をもっている主なテーマは、(1)地球環境にとって基本的要因とされるCO₂を中心とした重要大気成分の循環システム

であり、(2)気候と生態系との相互作用であり、さらに(3)地球圏と生物圏との相互作用を含む古気候や気候変動の再現などである。これらのテーマに関して、研究会が既に2回開催され、今後の研究の発展が期待される。

GAIM (ガイム) は、その目的から考えても明らかに気象学会の関心に深く係わるテーマであり、気象学会が中核になって取り細むに相応しい。その事情から、気象学会内に新しく研究連絡会を発足させ、会員の便宜を計ると共に、IGBP関連のモデリングの進歩に気象学会が積極的に貢献すべきであると考え、我々発起人が当面の世話人になることで、この度、常任理事会(7月1日)にて正式に日本気象学会 GAIM 研究連絡会の設立が承認されました。これにより、上記の日本学術会議の研究グループとも密接な連携を保ちながら、気象学会の関連情報交流の機関として活動することになりました。

なお、気象学会の研究連絡会はメンバー制ではなく、どなたでも活動に参加していただける仕組みですので、興味をお持ちの方は、研究会や関連情報網などに振ってご参加ご協力いただければ幸いです。

発起人および世話人

代表 及川 武久 (筑波大学生物科学系)

木田 秀次 (気象研究所)

佐藤 信夫 (気象庁予報部)

問い合わせ先

〒305 茨城県つくば市長峰 1-1

気象研究所応用気象研究部

木田 秀次 (きだ ひでじ)

TEL. 0298-51-7111

FAX. 0298-55-7240